

# オンラインイベントに関する業務支援について

○奥村 由香

産業科学研究所 技術室 計測班

okumura@sanken.osaka-u.ac.jp

## 1. はじめに

2019年12月から発生した新型コロナウイルスの影響であらゆるイベントがオンラインとなった。筆者はTV会議システムの運用サポートを行っていたのもあり、オンラインイベントに関する対応や相談を受けることが非常に多くなった。コロナ前は、様々なweb会議システムが存在していたが、この2年でzoomが圧倒的なシェアを占めるようになった。一方で官公庁系はwebex、企業はteamsを使用しているところも多い。シェア獲得の要因として、zoomはコロナ禍の間、教育機関に対し無料アカウントの40分制限のサービスを解除したことだ。また、webexの開発元のシスコは、NIIの協力のもとwebexを180日間にわたって無償で利用できる高等教育機関特別支援プログラムを提供した。

## 2. 進化するシステム

ビデオミーティング、資料共有の機能から大きく進化し、アンケート機能、バーチャル背景、拍手などのアクション機能、オンラインの中에서도ぐるープ分けできるブレイクアウトルームなどが登場した。そして最近では資料共有と参加者の画面サイズを変更することができ、管理者のレイアウトを参加者へ同期することができるようにもなった。

そして、ウェビナーの登場である。これまで会議に視点をおいたオンラインサービスであったが、講演会やセミナーなどもオンラインで行うようになり、ウェブで行うセミナー用としてウェビナーと称したミーティング機能とはわけたシステムが登場した。zoomだとzoomウェビナー、webexだとwebexEventsがそれに該当する。このウェビナーは、参加者同士は名前も顔も確認できないため、参加者のプライバシーを配慮しており、不特定多数でも参加できる仕様となっている。このようにイベントスタイルによってサービスを使い分けるようになった。

## 3. ポスターセッションをオンラインで

学会や研究会などもオンラインで開催されるようになり、ポスターセッションもオンラインで行うようになった。そこで、ポスター閲覧用のデジタルコンテンツを作成した。投票システムも導入し、各ポスターに「いいね」ボタンを用意し、一人当たりのクリック回数の制限を設けた。また自分の分野への投票と他分野への投票で点数を変えることにより組織票への対応も行った。使用した



図1. ミーティングとウェビナーの違い



図2. 自作したポスターセッションシステム

ものとしては、php、mysql、そして画像(ポスターを画像化)を拡大・縮小するのにためにZoomerというjqueryプラグインを使用した。

別のイベントでは、oViceというバーチャルオフィスサービスを使用して、ポスターセッションを行った。oViceは、自分のアバターがバーチャル内で自由に動き、近くにいるアバターと会話ができる機能となっている。またバーチャル内にオブジェクトが用意され、このオブジェクトに近づくとポスターや動画が表示されるようになっている。このサービスだと会場全体を把握することができ、実際のポスターセッションと似たような雰囲気を体験できる。

#### 4. これからのオンラインイベント

コロナが収まあってもオンラインイベントがなくなることはなく、オンラインとオンラインのハイブリッドタイプが主流になるとを考える。現在でもハイブリッド配信が行われているが、発表者がオンラインに接続し資料共有して、プロジェクトにつないで発表するといったスタイルが主流である。だが、音声がハウリングしたり資料共有がうまくいかなかったりとトラブルも多い。できればコロナ前のようにプロジェクトだけにつないで発表できるスタイルの方が良いのではないかと筆者は考える。そこで、図3のようにパソコンの映像もキャプチャしてしまい、ビデオカメラの映像とミキシングして配信する案を考えた。OBSというブロードキャストソフトを使用し、ビデオカメラとパソコンの映像を二つ取り込み、それをバーチャルカメラとして、zoomやwebexのカメラに指定させる。すると図のような配信が可能となる。これは通常の資料共有に比べ画質は落ちてしまうが、オンラインシステムは日々進化しておりこのような問題も今後解消されると考える。OBSのようなソフトも良いがハードウェアでこのようなことを実現し、誰でも簡単にハイブリッド配信ができるようにすれば、本業務の負荷も緩和されるのではないかと筆者が期待している。



図3. oViceについて



図3. ハイブリッド配信の1案



図4. OBSの設定